

武中の風



<発行>
鹿児島市立
武中学校
鹿児島市武 3-42-1

市郡総体が終わってからの活躍にもエールを贈りたい

校長 前田 浩二

市郡総体が終わりました。時間の許す限り各競技会場へ応援に行きましたが、どの部も最後まで諦めずにプレーする姿に感動をもらいました。

県大会へ出場する部はおめでとございます。

残念ながら県大会へ進めなかった人たち、特に三年生には、これからの活躍にもエールを贈りたいと思います。

試合に敗れた時、多くの人が悔し涙を流したことでしよう。特に三年生にとっては、中学校最後の試合となったことは大きなショックだったと思います。

私は中学生時代、剣道部に入部していました。私が住んでいた北九州市八幡西区では、県大会へ進むためには、区大会と市大会という二つの大会を勝ち抜かなくてはなりません。当時、八幡西区だけで中学校が十五校ぐらいいましたと記憶しています。私もみなさんと同じように中学校最後の試合と覚悟を決め、区大会へ必死な思いで臨みました。しかし、団体戦は負けてしまい、残るは個人戦のみとなりまし

た。私は順調に勝ち上がり、次の試合で勝てば市大会へと進むところまでできました。

そんな私の前に立ちかかったのは、東京の大会で優勝経験のある福岡県内でも有名な選手でした。私は一心不乱に戦いました。一本先取されましたが、得意の面で一本取り返すことができませんでした。特に力を入れて練習で磨きをかけてきた飛び込み面でした。一対一の互角になったあと、膠着状態が続きましたが、試合終了間際、つばぜり合いから引き面を打たれてしまいました。ほんの一瞬のことでした。

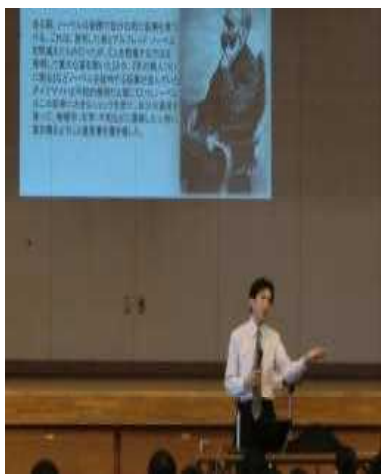
勝負ありの宣告を受け、試合は終わりました。あまりのあつげなさに現実を受け入れることができずにぼかんとしていました。少し経って頭に浮かんだのは、「もう少し粘っていれば延長戦になり逆転できたのではないか。このままでは終わりがたくない。時間を戻してほしい。」という思いでした。しかし、冷静になって振り返れば、最後に引き面を打たれたのは、自分自身の一瞬の気の緩み、油断でした。負けたことを一時期は引きずりましたが、今では、負けたことも良い思い出です。

さて、県大会へ進むことができなかった三年生のみならず、部活動を引退することとなり、悔しい思い、寂しい思いを抱えていると思います。勝つチームがあれば負けるチームも必ずあるわけですから仕方ありません。しかし、負けたからといって失ったものは一つもありません。むしろ、今まで目標に向かって努力してきたこと全て、負けた時の涙さえも貴重な宝物として残ると思います。これで終わりではありませぬ。高校で競技を続けるもよし、勉強を頑張るもよし、次の目標に向かってスタートしましょう。これからの活躍にもエールを贈ります。

蛇足ですが、私が中学生時代果たせなかった県大会出場という目標は、大人になって指導者として果たすことができました。

情報モラル教室

六月十日(土)に都立産業技術高等専門学校(都立産高)の客員教授を講師に体育館で情報モラル教室を開催しました。SNS等への書き込みは内容によって、相手の受け取り方が異なりトラブルになることなど、情報に関する意識と知識を高める機会になりました。



「教有月実大羽目」終了

本校卒業の2人の学生が教員免許取得を目指して実習を五月下旬から六月上旬まで行ないました。実習では、武中学校の教育活動等について管理職や主任からの説明や担当教員の指導を受けながら専門教科の授業や道徳、学級活動の授業を行いました。教師を目指して頑張ってください。



県総体・コンクール

市郡総体を勝ち上がり県総体へ6部活動が出場します。バレーボール部・男子ソフトテニス部・女子ソフトテニス部・女子バスケット部・卓球部・弓道部

です。また、吹奏楽部も県コンクールに出場して、九州大会・全国大会を目指します。武中学校生徒の活躍に応援をよろしく願います。

